

1 美術科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 美術科教育の意義 美術科の目標の視点＝美的、造形的表現・創造 文化・人間理解 心の教育

- ・ 小学校図画工作科における学習経験 →中学校美術科に関する資質や能力の育成  
豊かな感性や表現及び鑑賞の基礎的な能力 →人間形成の一層の深化 解説 p 6
- ・ 創造活動は、新しいものをつくり出す活動であり、創造活動の喜びは美術の学習を通して生徒一人一人が楽しく主体的个性的に自己を発揮したときに味わうことができる。 解説 p 7
- ・ 「愛好する心情を育てる」ためには、自分のしたいことを見付け、そのことに自らの生きる意味や価値観を持ち、自分にしかない価値をつくり出し続ける意欲を持たせることが重要。
- ・ 「豊かな感性」は、様々な対象・事象からよさや美しさなどの価値や心情を感じ取る力。

(2) 学年の目標の関心や意欲、態度に関すること

(1)美術の学習への関心や意欲、態度に関する目標、(2)表現に関する目標、(3)鑑賞に関する目標。

(1)は、学習を通して育てる関心や意欲、態度について示している。中学校美術科で育成する関心や意欲、態度とは、単に造形的な行為をすることが面白い、楽しいといったものだけではない。「A表現」及び「B鑑賞」の各指導事項に関して、そこに示されている資質や能力を発揮しようとしたり、身に付けようとしたりすることへの関心や意欲、態度のことである。同時に、一人一人の生徒が完成への目標を持ち、形や色彩などでよりよく創造的に表現しようと没頭し、創意工夫を重ねる誠実な努力の中で高められるものでもある。そして、美術科の学習を通して育成された関心や意欲、態度は、美術を愛好していく心情や、心豊かな生活を創造していこうとする意欲や態度につながっていくことを目指している。 解説 p 11

(3) 美術科の内容を確認する 活動は主に、A表現(1)(3)、A表現(2)(3)、B鑑賞(1)となる

**A表現(1) 感じたことや考えたことなどを基にした発想や構想**

- ア 主題の創出
- イ 主題を基にした表現の構想

「主題を創出する」とは生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描くこと。内発的に主題を見いだせるようにする。 解説 p 35

※題材を生徒が自分のものと受け止め、主題を考えやすくする配慮を。

\*主題生成のために、それぞれの生徒が必要とする配慮を考えて指導する。(フローチャートやマッピングが全員に必要なかどうかなども含めて)

**A表現(2) 目的や機能を考えて発想や構想**

- ア 構成や装飾を考えて発想や構想
- イ 伝達を考えて発想や構想
- ウ 用途や機能などを考えた発想や構想



伝える・使うなどの目的や機能を考えて発想や構想では、他者に対して、形や色彩、材料などを用いて自分の表現意図を分かりやすく美しく伝達することや、使いやすさなどの工夫が他者に受け止められるようにすることが重要。特に、心豊かなデザインの学習には鑑賞の視点の充実を図る。

\*生徒が最初に出会う「題材名」を、豊かな学びがイメージできるものにする。→授業の工夫が変化していく(例)光のある風景・心の架けはし(箸)・地域活性化プロジェクト(包装紙デザイン)・リラックいす

形や色彩、材料などを、単に自己の感覚のままに用いるのではなく、他者に対しても共感が得られるように、造形やその効果に対する客観的な見方やとらえ方の指導が必要。 解説 p 20

**A表現(3) 発想や構想をしたことなどを基に表現する技能**

- ア 創意工夫して表現する技能
- イ 見通しを持って表現する技能

発想や構想をしたことなどを基に、自分の表現を具現化するための創造的な技能。 解説 p 21

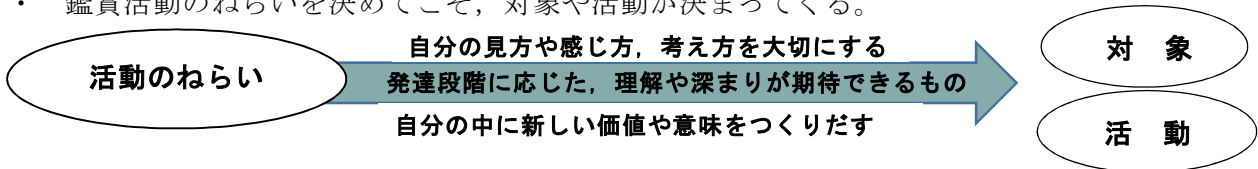
\*写真題材など、A表現(3)とは言い難いことがあるため、A表現(1)のみ(2)のみの時もある。

**B鑑賞(1) 美術作品のよさや美しさを感じ取り味わう鑑賞**

- ア 造形的なよさや美しさなどを感じ取り味わう鑑賞
- イ 生活を美しく豊かにする美術の働きに関する鑑賞
- ウ 美術文化に関する鑑賞

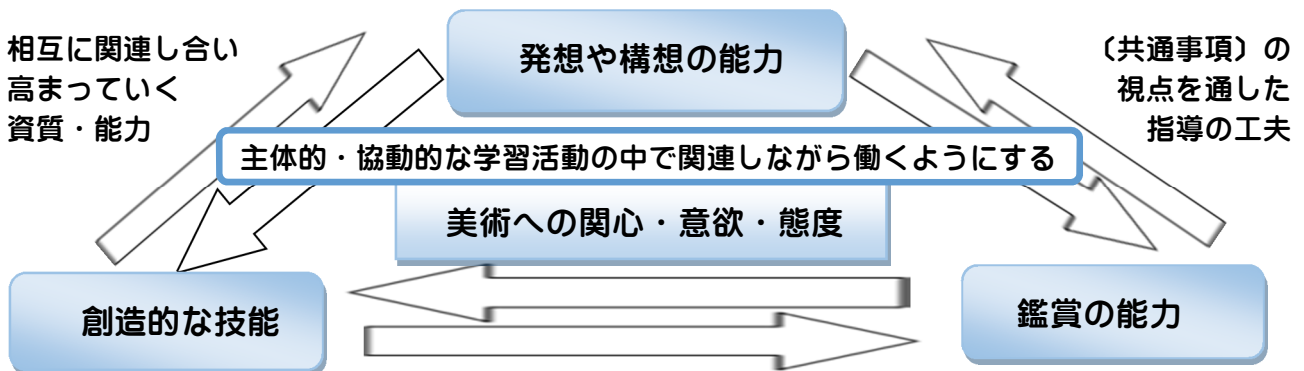
※第1学年では、指導事項の「ア」が「ア」、「イ」が「ウ」。第2学年及び第3学年では、指導事項は標記通り。

- ・ 鑑賞の学習は、単に知識や定まった価値を学ぶだけの学習ではなく、知識なども活用しながら、様々な視点で思いを巡らせ、自分の中に新しい価値をつくりだす学習。 解説 p15
- ・ 自分なりの意味や価値をつくりだしていく学習を重視し、第1学年に「作品などに対する思いや考えを説明し合う」学習を取り入れ、3年間で説明し合ったり批評し合ったりするなどの言語活動の充実が図られるようにする。さらに、形や色彩、イメージなどの〔共通事項〕を視点に、美術科で育てようとする資質・能力を具体的に育成するような言語活動の充実を工夫する。言葉にすることにより、それまでは漠然と見ていたことが整理される。人と意見を交流することにより、自分一人では気付かなかった価値などに気付くことができるようになる。
- ・ 我が国の美術についての学習を重視し、第1学年に「美術文化に対する関心を高める」学習を新たに示し、3年間で系統的に美術文化に関する学習の充実が図られるようにする。 解説 p5
- ・ 鑑賞活動のねらいを決めてこそ、対象や活動が決まってくる。



**(4) 学びのプロセスの確認をする** 美術科の学びは<sup>プロセス</sup>過程にある

**主体的な学びのために** 展覧会の作品からも、主題や過程を見つめる生徒のコメントが多く見られるようになってきた。教師側も、作品を軽視することではないが、生徒の制作過程を大事にする姿勢が見られるようになってきた。教師が説いた道筋によってゴールが一つになっていないか。生徒の数だけ見付けた答えや方法があり、そこから「そういう答えや方法もあるのか」と気付き更に進めるようにしているか。活動があつて学びのない授業、作品があつて過程が見えない授業になっていないか。生徒自身が“ハンドルを握っている”活動であるかどうか再度確認を。



初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(諮問)から ~学ぶことと社会のつながりを意識し、「何を教えるか」という知識の質や深まりを重視することから「どのように学ぶのか」ということをより意識することが必要。また、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重要。→課題の発見・解決に向けて主体的・協動的に学ぶ学習の充実と、そうした学習・指導方法を教育内容と関連付けて示す在り方を考える。

**(5) 学習評価を機能させる(指導と評価の一体化)**

評価規準を明確にすると、授業のねらいや指導の方向が定まっていく。つまり、育成する資質・能力を明らかにして授業を組み立て、学びのプロセスや指導の改善に結び付けることができる。

→『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料』(平成23年11月)の活用を。

(☆『仙台版スタンダードカリキュラム』の参考・活用)

## 担当指導主事連絡協議会報告について

H27.06.10

学習指導支援班

### 1 文科省調査官からの伝達事項について（小学校及び中学校教育課程研究協議会資料）A4版 2p

#### （1）内容

- ・作成資料は、平成27年6月22日（月）～7月10日（金）に行われる担当指導主事連絡協議会において、文科省からの説明内容をもとに作成する。

#### （2）作成に当たって

- ・印刷製本する当日の配布資料は、各教科A4版2ページ以内にまとめる。項立てについては、（4）参照。
- ・全教科一括で簡易決裁後、印刷・製本する。
- ・補助資料が必要な場合は、配布資料と合わせて決裁を受ける。ただし、補助資料は、連絡協議会で許諾されている資料及びこれまでの説明会で示された関係資料（評価規準の具体一覧表、評価規準の具体例等）に限る。

#### （3）書式について

- ・余白は、上下左右20mmに設定する。
- ・1ページ文字数は44文字、44行に設定する。（行間は自動設定値、必要に応じて行数を増やしてよい）
- ・本文は、MS明朝体10.5ポイント、項目 [ 1, (1) ] は、MSゴシック体10.5ポイントを使用する。
- ・図の表題 [ 図1 ] は、MSゴシック体で図の下に記載する。
- ・表の表題 [ 表1 ] は、MSゴシック体で表の上に記載する。
- ・図表内のフォントは8ポイント以上、種類は自由とする。
- ・文章中の2文字以上の英数字は、半角を基本とする。
- ・教科等名は、ヘッダーに囲み文字で入れる。  
小学校 国語科（小学校 or 中学校 or 小・中学校＋半角スペース＋正式教科等名）
- ・ページは、マージン10mmで、教科略名とページ番号を入れる。フォントはMS明朝体を使用する。

小国-1-（小社，小算，小理，小生，小音，小図，小家，小体，小道，小外，小特，中国，中社，中数，中理，中音，中美，中保体，中技，中家，中外，中道，小中総合，小中総則）

#### （4）様式（項立て等）について

- ・表題は、MSゴシック体10.5ポイントを使用し、中揃いで「小学校（中学校）各教科等担当指導主事連絡協議会 伝達事項」とする。
- ・原則として、文科省から配付された「実施要項・関係資料」の各教科等の説明資料の項立てに沿って作成する。
- ・1は全教科等共通に「～における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項」とする。
- ・2以下については、各教科等で必要に応じて項立てする。
- ・「参考資料」については、項立てせず、必要に応じて関連する記述の後に付記する。

項立て例

- 1 ~における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項
- 2 平成 26 年度全国学力・学習状況調査の調査問題の趣旨等
- 3 その他

(3) 表記について

- ・ 外出しの資料なので、誤表記等がないようにチェックの上、提出する。
- ・ 指導要領の引用等は、原文のままの表記を使用する。
- ・ それ以外については、「用字・用語の表記例」(23.4)を参照する。

(4) 提出について

- ・ 7月6日(月)または7月13日(月)まで熊谷へ紙で提出する。
- ・ 決済終了後、印刷用原本(紙ベース)は熊谷へ提出する(印刷へ回します)。電子データでも提出する。「Ridoc」及び「業務用フォルダ」へ保存する。  
※dbase→業務用フォルダ→その他の業務→04 文部科学省対応→連絡協議会→報告資料等  
→伝達事項

2 協議事項について(所内資料) A4版1枚程度

(1) 書式について

- ・ 1の資料と同様とする。

(2) 様式について

- ・ 表題は、MSゴシック体10.5ポイントを使用し、中揃いで「小学校(中学校)各教科等担当指導主事連絡協議会 協議事項」とする。
- ・ 協議題ごとに必要に応じて簡潔にまとめる。

(3) 提出について

- ・ 1の電子データ提出と一緒に提出する。(決済の必要なし。年度内に入れておく)

※ この文書の書式が、提出資料の書式になっておりますので、御活用ください。